

2017/10/20

グループ演習 最終発表

若者の介護意識の実態把握と 介護者としての備えに向けた検討

グループ演習 2班

アドバイザー教員:古川宏

中村祐太、押野悠大、佐々木彩葉、WU XIAODONG

介護人材の不足と待機老人

- ◆ 高齢化に伴い、介護人材の需要が増加
⇒ **介護人材の不足**

約37.7万人
(2025年時点)

- ◆ 待機老人
特別養護老人ホームに入所できない高齢者のこと

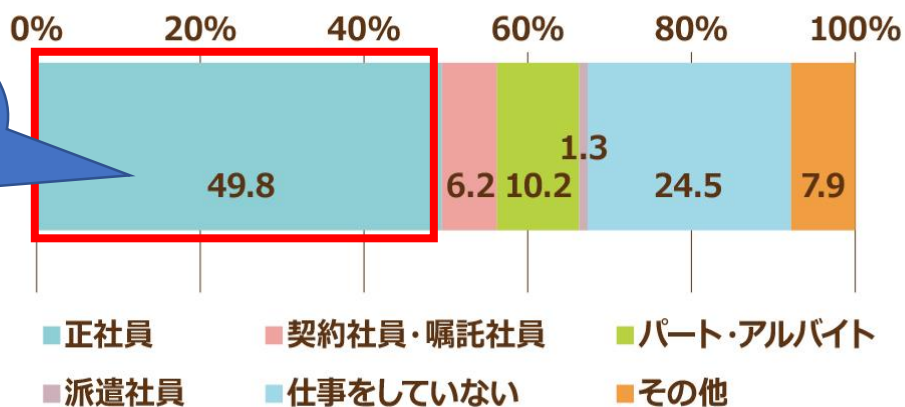
(厚生労働省 定義)

約52万人
(2013年度)

介護離職

◆介護離職者数は年間約10万人

【離職者】再就職の状況



正社員として
再就職できているのは
半数に満たない

出典：みんなの介護「介護離職の増加 理由と対策」

介護離職者は多く、再就職も厳しい



介護を見据えた人生設計が必要

介護の始まるタイミング

「介護と年齢」に関する意識・実態調査 (大王製紙(株), 2017)

- ◆ 「20・30歳の時、将来在宅介護を行うとっていましたか」
⇒ 約8割が「思っていなかった」と回答

若い時は
「在宅介護」を行うと
予想していなかった

- ◆ 「思ったよりも自分が若い年齢で『在宅介護』が始まったと思いますか」
⇒ 約6割が「はい」と回答

予想より自分が若い年齢で
「在宅介護」が始まった

学生の介護意識

大学生を対象とした高齢者介護についての意識調査

(大森, 2007)

- ◆「将来身内の誰かに介護が必要な状態になった時のために、介護の知識を学ぶ必要があると思うか」

⇒約8割が「非常に思う」「思う」と回答

多くの人が介護の知識を学ぶ必要があると思っている

- ◆「介護について学ばなければならないと考えることがら」

⇒無回答が約半数

具体的に何を学べばよいか分からない人が多い

背景を踏まえて

介護について何を
学べばいいんだろう…

介護って大変そう…

介護ってまだ先のこと
じゃないのかな…



若者が介護に備えて今できることは何か？

目的

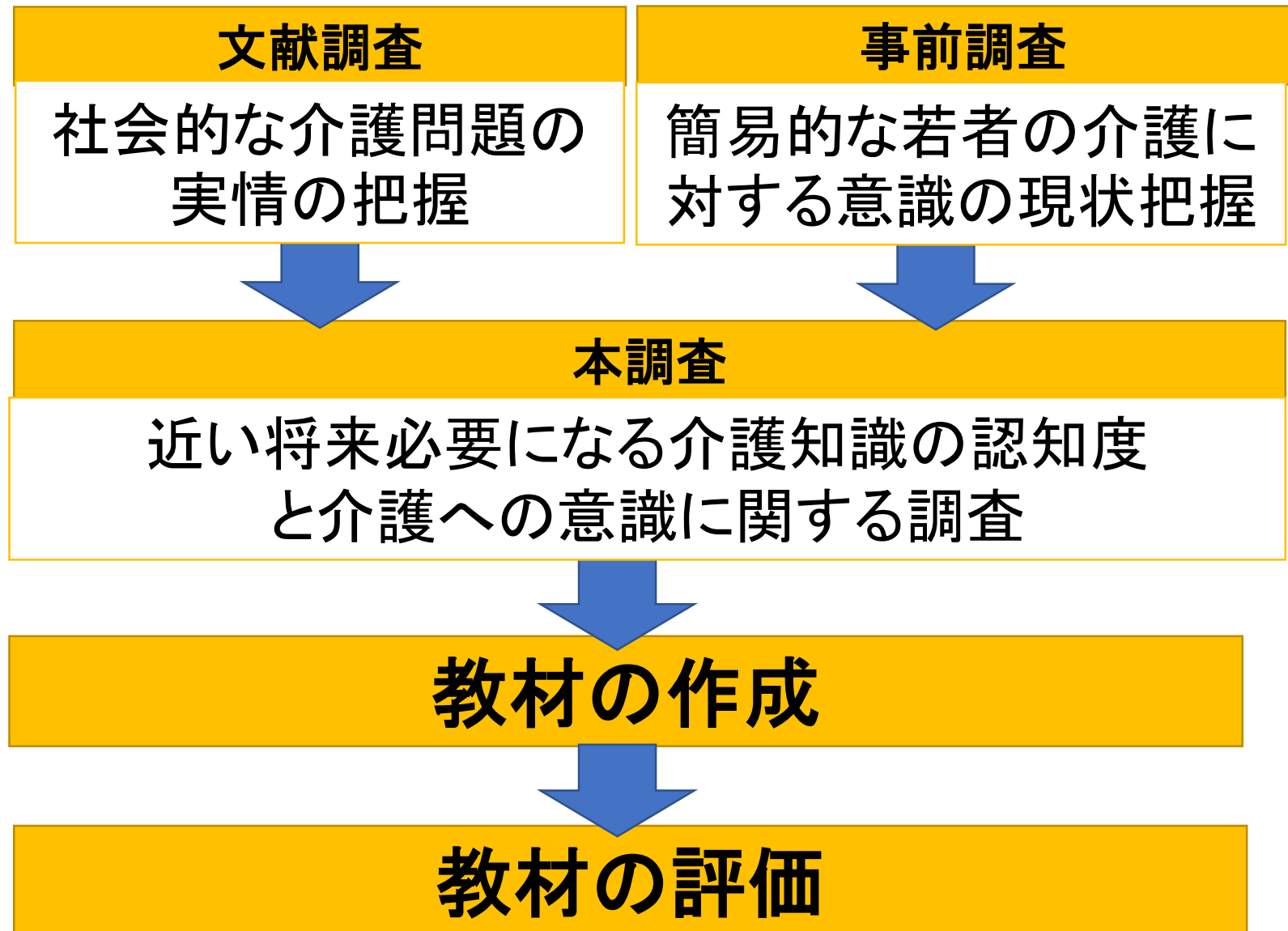
- 若者に関わる介護意識の実態把握を行う
- 自身が介護者になった時や周囲の介護に関わる人のQOLの低下を防ぐ試みとして、教材の検討を行う



若者にとって直近で対応できることを
若者へ周知する



研究の流れ



事前調査一概要

➤ 調査目的

若者が介護に対して抱いている意識調査

- ・調査対象：筑波大生 大学1年生～修士2年生の36人
- ・調査日：6月13日～6月20日

➤ 調査内容

- ・周囲に介護に関わっている人の有無
- ・家族の介護について考えたことがあるか
- ・介護に関する学習の有無
- ・介護が必要になる状況についての認知
- ・介護サービスの認知
- ・介護費用についての認知
- ・人手不足から生じる問題

事前調査—結果

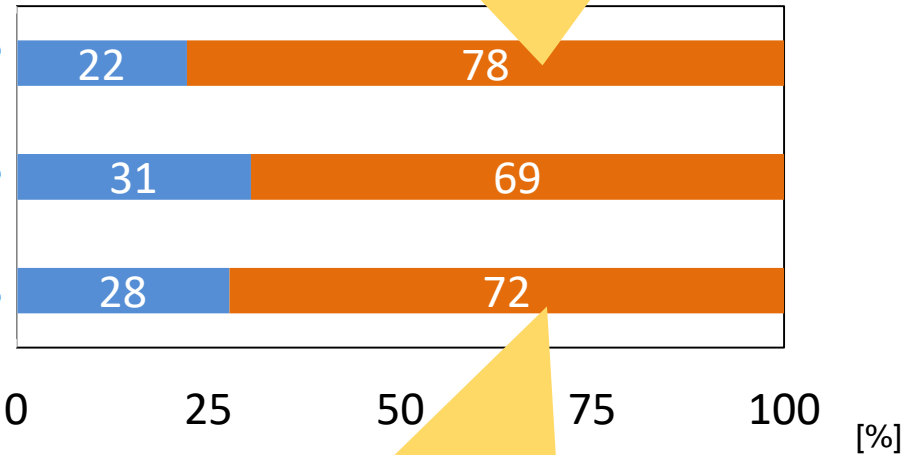
➤介護に関する知識

周囲(家族・友達)に介護に関わっている人がいますか？

介護にかかる費用について知っていますか？

これまでに介護について学習したことはありますか？

■ はい ■ いいえ (N=36)



若者が介護を身近に感じない理由の1つ

介護に関する具体的な知識を知らない可能性がある

若者は介護を身近に感じる事が難しい状況にあり、介護に関する具体的な知識が**まだ十分に備わっていない**可能性がある

本調査一概要

➤ 調査目的 若者の介護に関する意識調査

- ・調査対象: 筑波大生 大学1年生～大学4年生の129人
- ・調査日: 8月28日、9月11日、10月4日

➤ 質問内容 (全19問)

【介護の知識】

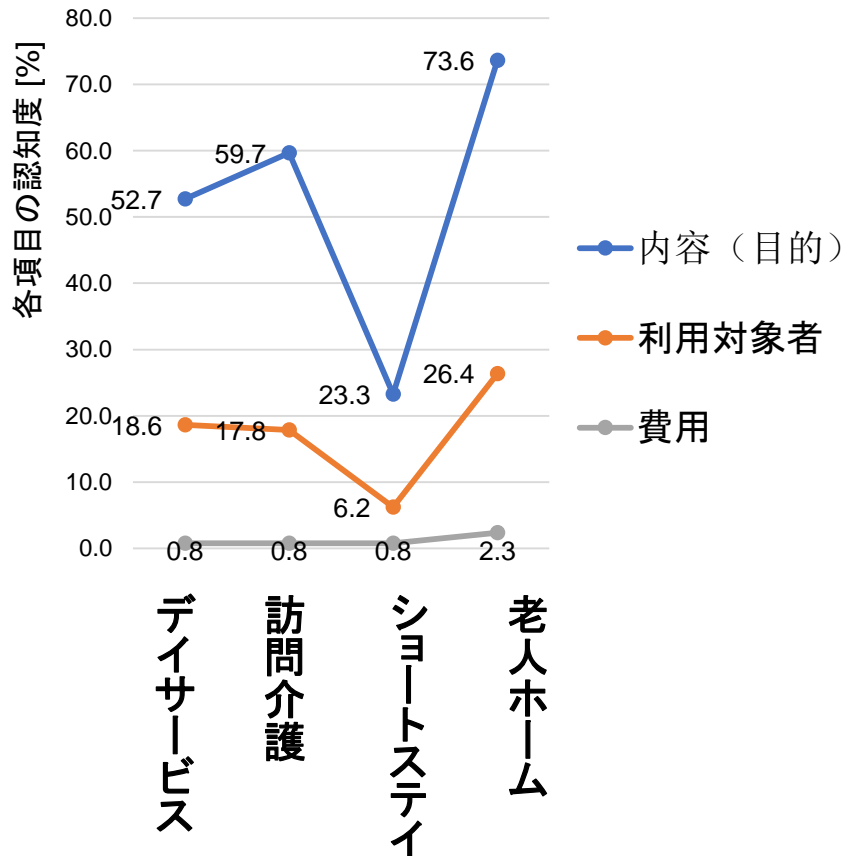
- ・介護について学習したことはありますか
- ・介護サービスについて知っていますか
- ・有料老人ホームの入居金はいくら知っていますか

【介護に対する意識】

- ・介護について考えたことはありますか(誰と、いつ)
- ・家族が介護を必要とした時にあなたはどうしますか
- ・今後、介護に備えるとしたらなにが重要になると思いますか

本調査一結果（知識）

➤ 介護サービスについて知っていますか



①内容（目的）

- ・3項目で半分以上の認知度
- ・ショートステイは23%と比較的低い

②利用対象者

- ・全ての項目で認知度は低い

③費用

- ・全項目で認知度は5%以下

どの程度経済的に備える必要があるかわかっていない

本調査—費用の具体例

主に在宅で介護を受けている高齢者が**通って利用**するサービス

送迎付きで食事や入浴、レクリエーションなどを受けられる！！



利用料金

(要介護1：入浴や排泄の補助が必要)

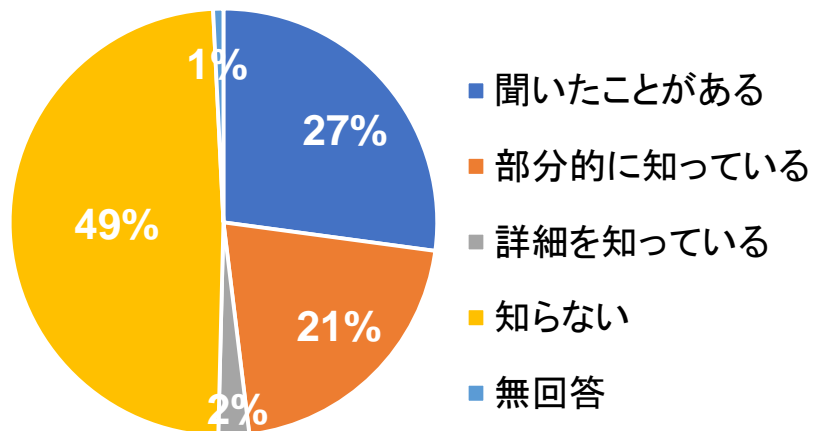
- ✓ 1回の利用（5～9時間）で
550～650円（1割自己負担の場合）
- ✓ 入浴や食事やプールは別料金

入浴加算	50 円/日
食事代	700 円/食
プール使用料	100 円/日

出典) コミュニティガーデンつくば

本調査一結果（知識）

➤ 要介護・要支援の分類について知っていますか



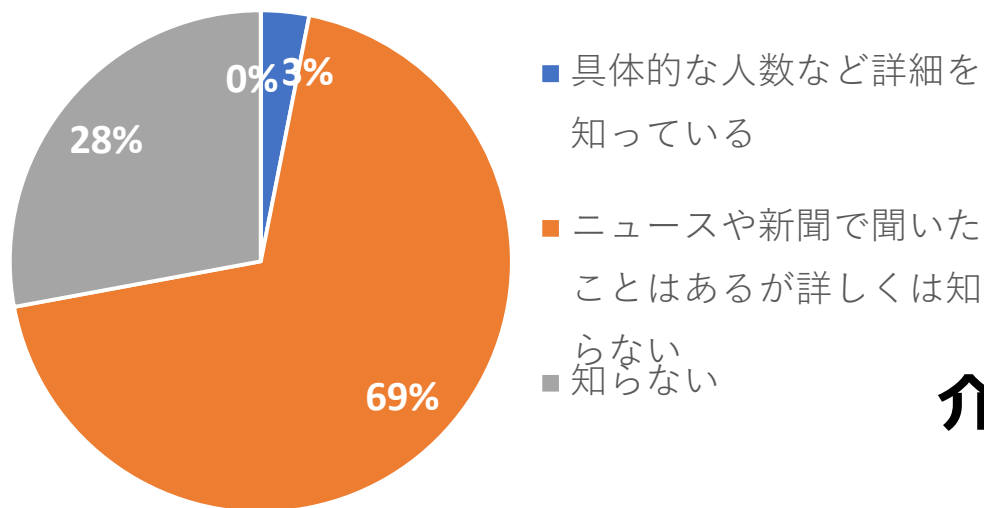
約5割の人が知らないと回答



正しく理解している人は少数

※介護度に比例して受けられる**サービス増**だが、**費用の負担増**

➤ 介護離職について知っていますか



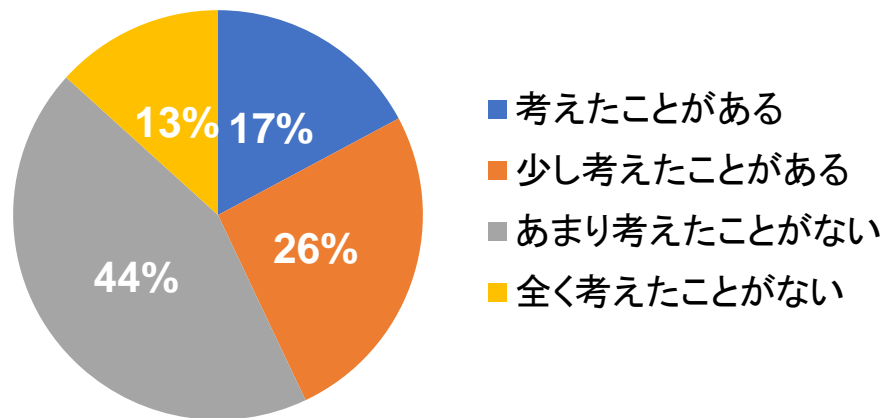
詳しく知っている人はほとんどいない



自分に関わる
介護問題について知る必要がある

本調査一結果（意識）

➤ 介護について考えたことはありますか

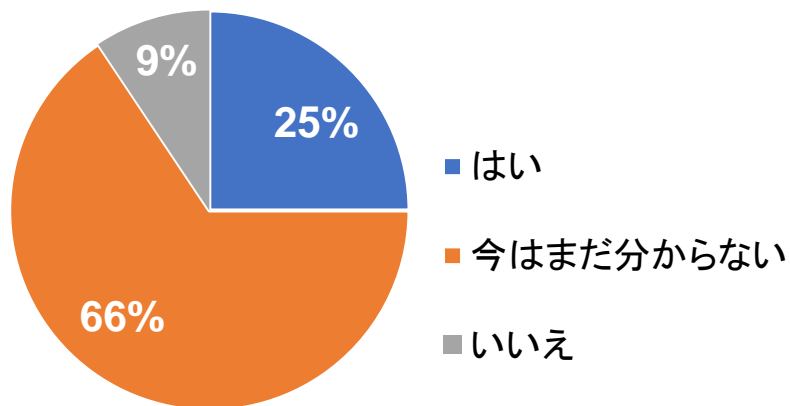


「全く考えたことがない」
「あまり考えたことがない」が半数以上



若者の介護への意識は高くない

➤ 就職する時に福利厚生について考慮しますか



「今はまだわからない」が約7割



**ほとんどの人が就職活動の際に
福利厚生を意識していない**

福利厚生を意識する



➤ 就職時に

介護に関する福利厚生が充実している会社を選択する

・介護休業制度:

- ✓「要介護状態」の家族を介護するために、対象家族一人につき1回、最大3ヶ月まで休業できる制度
- ✓しかし、制度があっても活用できるかは社風による...

「介護休暇なんて…」
「仕事を続けられるのか…？」
と思われる場合もある

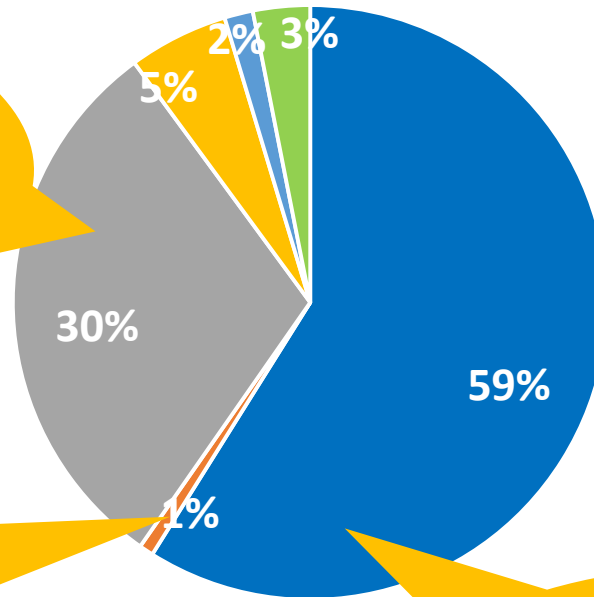
本調査一結果（意識）

➤ 自身の家族に介護が求められたときに、あなたはどうか

家族の介護は
自分とは切り離せない
問題であるという
認識はある

介護離職という
現実に反し、
仕事を辞めることを
検討している人はいない

費用面の知識は
ないものの施設入居を
漠然と検討している



- 施設入居を検討する
- 仕事をやめて自分が介護する
- 仕事は辞めないが被介護者の近くにすんで自分が介護する
- 自分以外のだれかに任せる
- 特に自分には関係ないと思う
- その他

介護者として自分のためにも介護を見据えた就職先の選択や
福利厚生を考慮することが望ましい

本調査—考察・まとめ

知識面

介護サービスや要介護度についての認知度は低い
施設入居を希望する人や金銭面を心配する人が多い



介護サービスの内容、費用を正しく理解するべき

意識面

介護離職という実情があるにも関わらず、仕事を辞めて
介護をすることを検討している人はほとんどいない



**将来の介護を見据えた就職先や福利厚生を
考慮することが望ましい**

教材の概要

本調査に基づき、学生にとって必要となる項目を選定

① 介護サービス

② 介護が抱える問題



③ 学生が直近で
取り組んでほしい内容の提案

付録：介護相談窓口

教材の内容

①介護サービス

- 介護サービスとその主なサービス
- 要支援と要介護の区分

②介護が抱える問題

- 待機老人
- 介護離職

③学生が直近で取り組んでほしい内容の提案

- 介護に関する福利厚生が充実した就職先を選択する
- 家族で相談する
- 親が介護することになった時にできること

教材の評価

学生による評価

平成29年

10月11日～10月13日

筑波大生17人

(リスク工学専攻を除く
大学4年生～修士1年生)

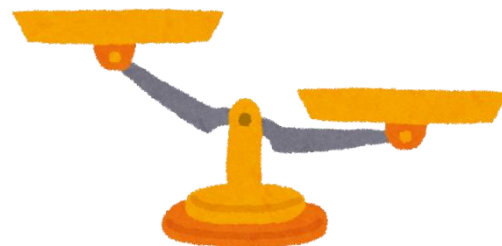
アンケートによる評価

専門家による評価

3人の立場の違う専門家

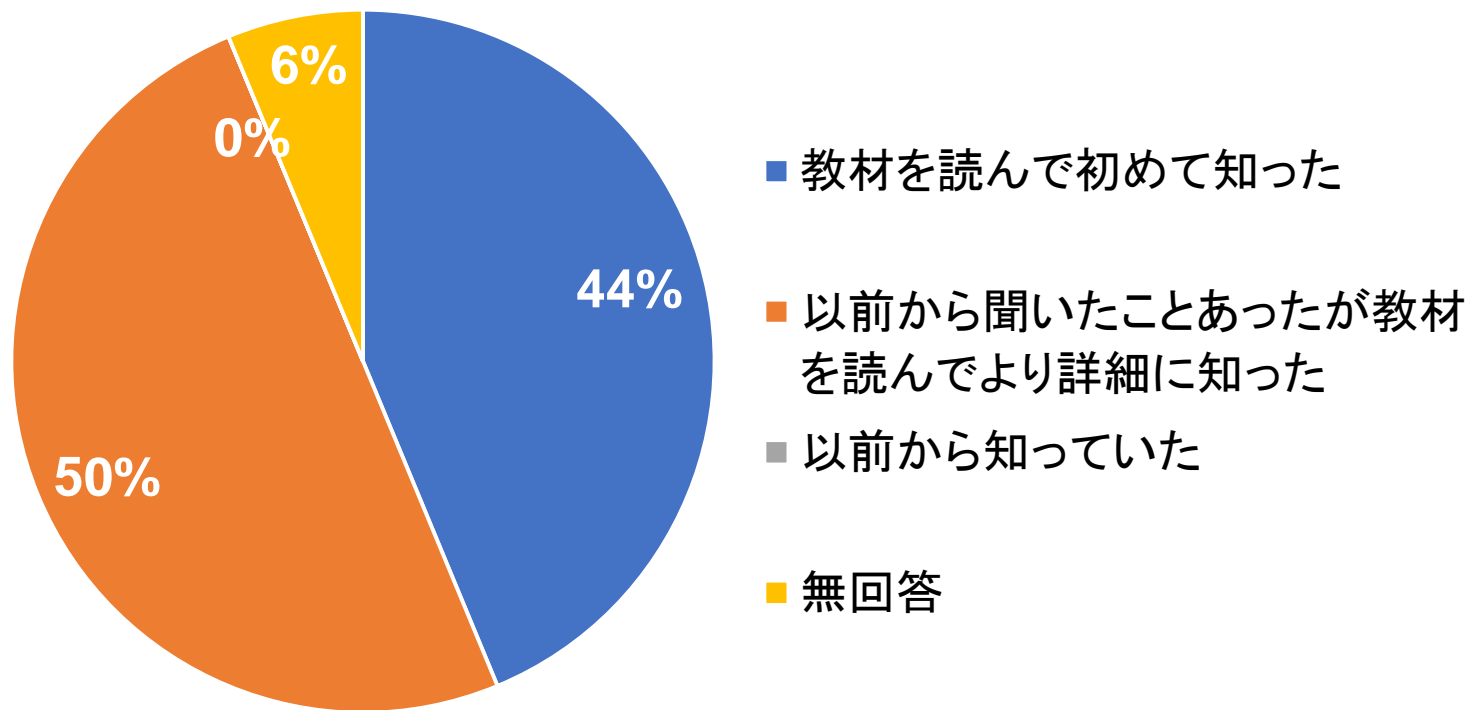
- ・大学職員
- ・市役所職員(福祉課)
- ・地域包括支援センター 職員

専門家の視点から見た
教材の妥当性の評価



教材を読んで知識量は変化したか？

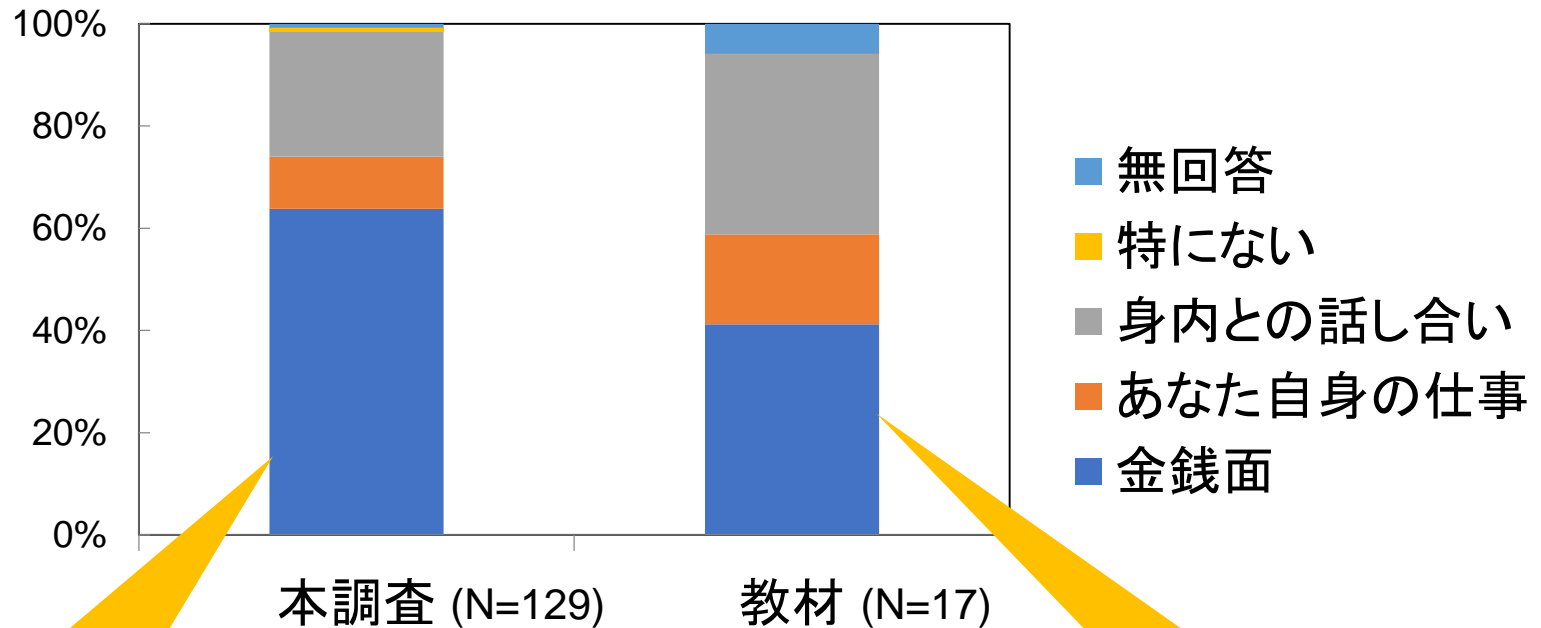
要支援・要介護の分類について以前から知っていましたか



教材を読んだことによって知識量に変化

教材を読んで意識は変化したか？

もしあなたが今後、家族の介護に備えるとしたら、
何が一番重要になると思いますか



約6割が
金銭面を心配



提案によって
回答が多様化した

学生の感想



祖母の介護に母親が
苦勞していたので、
介護について自分も勉強し、
手伝いなどができればよかった



待機老人の存在は
今回初めて知った



両親は自分自身が
介護される用の
貯蓄をしているのか
聞いてみようと思う

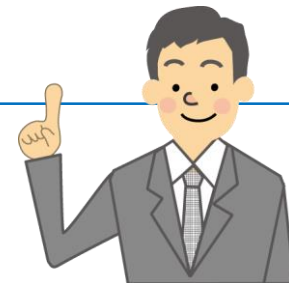
専門家の評価

若者に向けた教材としての評価

- 説明が見やすく工夫して解説されており、わかりやすい
- **若者に向けた教材としては十分な内容**

介護を周知するパンフレットとしての発展

- 介護保険制度を理解するだけでは、介護を十分に知ることはできない
- 高齢者がどのように暮らしているのか理解する事も重要
- 相談窓口はどこにあって誰が相談に乗ってくれるのかを詳細に述べてもよい



まとめ

①実態把握

- 若者は介護に関する知識量が圧倒的に足りない
- 介護の費用面の知識はないけれど、施設入居を漠然と検討している人が多数

②提案

- 将来の介護を見据えた就職先や福利厚生を考慮することが望ましい
- 身内との話し合い

③教材

- 介護の知識の増加や、介護に対する意識の向上が現れ、介護者になる備えに向けた一助になったと考えられる

今後の課題

- 本調査のアンケート結果に対して、作成者側が意図しない回答があったため、アンケートの改善の余地がある
- 本調査の各設問同士の回答の相関を分析するまで至らなかったため、より詳細な相関関係の分析の余地がある
- 教材の内容にも専門家の意見を反映させることでさらなる発展が見受けられる

最後に、悲観的な意見が散見されたが...

介護の発生自体はマイナスなものではなく
生きていくという営みの一つに過ぎない



介護を悲観的に捉えず受け入れることが大事



参考文献

- [1]厚生労働省;2025年に向けた介護人材にかかる需給推計(確定値)について,(2015),http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/270624houdou.pdf_2.pdf
- [2]三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社;仕事と介護の両立に関する労働者アンケート調査,(2012),http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/dl/h24_itakuchoosa05.pdf
- [3]厚生労働省;「地域包括ケアシステム」、http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureishinshitsu/chiiki-houkatsu/dl/link1-4.pdf
- [4]内閣府;「平成28年版高齢社会白書」、http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html
- [5]厚生労働省;「平成26年度 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」、<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304500-Roukenkyoku-Ninchishougyakutaiboushitaisakusuishinshitsu/0000111665.pdf>
- [6]大森直;「大学生を対象とした高齢者介護についての意識調査」、京都学園大学紀要、79-85,(2007)、http://archive.kyotogakuen.ac.jp/~o_human/pdf/association/p2007_06.pdf
- [7]大王製紙;「『介護と年齢』に関する意識・実態調査(平成29年5月29日発表)」、<https://prtimes.jp/a/?c=12928&r=10&f=d12928-10-pdf-0.pdf>
- [8]厚生労働委員会調査室;「平成29年度(2017年度)社会保障関係費 — 医療・介護制度改革と一億総活躍社会に向けた施策 —」、http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2017pdf/20170201079.pdf